

インタビュー

低迷は構造的な問題 発見や新鮮味ない テーマ別観光の展開を

JR東海相談役

須田 寛さん

旅館は古い習慣は正 旅行は手数料商売脱却 外客250万は第二の開国



京大法卒。1954年4月国鉄入社。JR東海の社長、会長を経て、2004年6月から相談役。日本観光協会中部支部長、日本商工会議所観光専門委員長など兼務。京都府出身、79歳

景気低迷の影響なのか、他に原因があるのか、国内観光がどうも元気がない。2011年の観光業界はどういった手を打ち、この閉塞感を打破すればいいか、そのヒントを観光業界のオピニオンリーダーの一人、JR東海の須田寛相談役にうかがった。(聞き手 編集長・内井高弘)

国内観光の現状をどう見ているか。活況とはいえないように見えますか。

「景気低迷、先行き不安感もあって消費者の財布の紐が固くなっているところもあるが、構造的な問題もあると考える。ここ数年、国内旅行市場はほとんど成長していません。低迷状態が続いている。宿泊旅行参加率、宿泊回数も減少、むしろ横ばいの状況にある。伸びていないのはニューアールを繰り返して、目新しさを打ち出している東京ディズニーリゾート(DR)くらいではないか」

「国内旅行をしても新しい発見、新鮮味を感じさせない。旅行に行くよりも携帯電話やテレビゲーム、自分の趣味などにお金を使う方が多いという人が増えている。レジャーの選択が増え、昔のようにレジャー即観光という状況ではない。特に、携帯電話の普及は若者の旅行離れの一因となっている。観光業界は本質的に新しい旅の楽しみ方を提案しないと、この状況は変わらない。見方を変え、違う角度から観光資源という

「産業観光は須田さんが早くから提唱しました。『まず『見て』楽しむ意義がある』という考えが、同時に『体験』、そして『開業事例』として『観光』であること。開業事例としては『産業博物館、資料館』を中心に展開するもの②『産業文化財とその集積を中心とした展開』③『大型プロジェクトの連携を中心に展開するもの④第1次産業(農漁業)に

「これまでの観光資源は『見る観光』が中心だったが、一歩進んで『体験』『学習』を念頭に、従来の『自然』『歴史文化』という分類を切り離して考えるならば、これはあるテーマを考えた、別々に観光資源を3つ割りに見直してみようとするものだ。テーマは生活に密着したもので、また地域とのつながりを重視して、産業、街道、そして都市の3つを提案している」

「例えば、海、川、湖についてみると、これまででは景色を眺めたり、水遊びをしたりと水辺に親しむという観光行動の中心だった。産業という点から見ると、海の場合、どんな魚、どんな漁法があるのかというところを学ぶことも、鯛網漁、地曳き網、潮干狩りなど漁業にかかわるという楽しみ方があるか、またそれらに実際に参加、体験もする。寺

社についても同じ。由緒、歴史などのほか、建築物という点から建築様式、材質などに注目する。見方、角度を変えれば、旅の新しい楽しみ方が生まれてくるということだ」

「観光資源の重要な構成要素でありながらこれまであまり重視されていなかったが、最近では食べ物を求めて旅行に行くという人が多くなっている。つまり、食が観光の動機付けとなっているのだ。ご当地グルメ、B級グルメの集客力を高く見ている。観光資源として大きな可能性を秘めていることを観光関係者も認識すべきだろう」

「具体的な。『例えは、海、川、湖についてみると、これまででは景色を眺めたり、水遊びをしたりと水辺に親しむという観光行動の中心だった。産業という点から見ると、海の場合、どんな魚、どんな漁法があるのかというところを学ぶことも、鯛網漁、地曳き網、潮干狩りなど漁業にかかわるという楽しみ方があるか、またそれらに実際に参加、体験もする。寺

「観光資源の重要な構成要素でありながらこれまであまり重視されていなかったが、最近では食べ物を求めて旅行に行くという人が多くなっている。つまり、食が観光の動機付けとなっているのだ。ご当地グルメ、B級グルメの集客力を高く見ている。観光資源として大きな可能性を秘めていることを観光関係者も認識すべきだろう」

「観光資源の重要な構成要素でありながらこれまであまり重視されていなかったが、最近では食べ物を求めて旅行に行くという人が多くなっている。つまり、食が観光の動機付けとなっているのだ。ご当地グルメ、B級グルメの集客力を高く見ている。観光資源として大きな可能性を秘めていることを観光関係者も認識すべきだろう」

オピニオン

低迷打破のヒント



B級グルメの祭典、B-1グランプリには数十万人が足を運び、何時も並んで食べるという盛り上がりです。「グランプリに輝いた鳥もつ煮を食べようと、甲府市に多くの観光客が押し寄せている。富士宮やきそばや厚木シロコホルモンなど多岐にわたる。まさに食が地域ブランドとなった好例だ。横須賀の海軍カレー、舞鶴の肉じゃが、佐世

「倒産や廃業する旅館が後を絶ちません。『景気の影響や宿泊単価の低下』など、旅館を取り巻く環境の厳しさは承知しているが、未だ古い商習慣が残っていることも要因の1つです。JR東海も旅行会社にき

「訪日外国人観光客についてはいかがですか。『日本の経済成長にとって、観光立国は必要不可欠であり、特にインバウンドはそのかぎを握っている。円高や尖閣諸島問題を

「新しい施策を打ち出しているものの、まだ完全に実っていないと言いはれない。各都府それぞれ観光関係施策を進めており、国の観光施策が完全に一本化されているとは言えない。観光庁が力を発揮できる法的裏付けが不十分で、せっかくの組織が十分生かされていないように思える。その中でスタッフは頑張っていると思うが、政府の一段の組織強化をお願いしたい。また我々観光業界も庁をバックアップする姿勢を強め、政官民一体となって観光立国実現のために一層努力すべきだ」

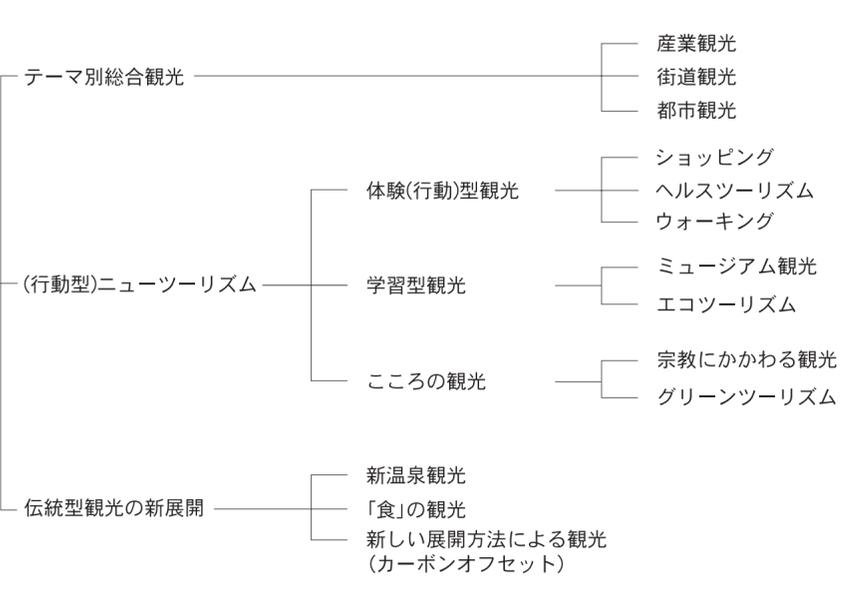
「この3都市はいずれも軍港都市として発展してきた共通の歴史がある。そこに駐屯する軍人の兵食が土地の名物食品となったもので、この3食を連携させて、食の『旧軍港シリーズ観光』として情報発信し、観光客を集めている」

「『観光客を集めて』という観点から、食の『旧軍港シリーズ観光』として情報発信し、観光客を集めている」

「『観光客を集めて』という観点から、食の『旧軍港シリーズ観光』として情報発信し、観光客を集めている」

「『観光客を集めて』という観点から、食の『旧軍港シリーズ観光』として情報発信し、観光客を集めている」

観光資源の再構成



地域の「光」と「個」を生かした新しいまちづくり

